

このコーナーは市内のいろいろな出来事を紹介するコーナーです。皆さんの身近な出来事をお知らせください。

◆連絡先
安芸高田市 政策企画課
TEL 42-5612
〒731-0592
安芸高田市吉田町吉田791番地



貴重な文化財を私たちが守る！ 安芸高田市文化財防火デー訓練

1月24日(日)、折しもこの冬で一番の寒波が、安芸高田市を包み込んだ朝。昭和30年から続く「文化財防火デー」にちなんで、安芸高田消防署及び安芸高田市消防団吉田方面隊、そして、吉田町竹原地区自主防災隊のみなさんによって、市指定重要文化財法圓寺茶室(三菱窟)付近で、火災が発生したことを想定した訓練が行われました。降りしきる雪の中、自主防災隊による初期消火訓練。消防署及び消防団による放水訓練が行われ、貴重な文化財を自らの手で守り、次世代に受け継ぐ大切さを訓練によって確認されていました。



落語で学ぶ男女の助け合い 笑う門には落語あり

落語家の秋風亭てい朝さんによる男女共同参画リレー講座「笑う門には落語あり」が市内各人権会館・人権福祉センターで開催されました。

1月27日(水)は甲田人権会館で開催され、まず落語とは何なのかをわかりやすくお話いただき、その後、夫婦が題材となった落語を2つ披露。秋風亭てい朝さんのユーモアあふれる落語に会場はしばしば笑いに包まれました。「男女共同参画」という堅いイメージを持ってしまいがちですが、落語でわかりやすく夫婦、男女の助け合いを学びました。



地域包括ケア推進にむけて、住民参加型研修会 地域包括ケア推進研修会

1月29日(金)、八千代文化施設フォルテにおいて、高齢者福祉課と八千代大学の共催の講座として「地域包括ケア推進にむけて、わたしたちができること…」をテーマに、広島県地域包括ケア推進センターが石口房子さんを招いて講座が開催されました。今回の講座は、住民参加型であることが大きな特徴で、48名の参加者はグループに分かれワークショップを行いました。いつもは、話を聞く事が多い受講生も、自らが主人公となり、この町で住み続けるために心配なことを、グループで活発に意見を交わしていました。



体は小さくても一生懸命舞います 第16回新春高宮子ども神楽発表大会

1月31日(日)、高宮田園パラッツォで新春高宮子ども神楽発表大会が開催されました。

高宮町の子ども神楽団・神楽同好会は羽佐竹・来女木・原田にある3団体。お祭りや老人ホームの慰問などに向けて、週に1~2回練習を積んでおり、今回の神楽発表大会に向けても練習を重ねてきました。ステージの上で披露される小学生のかわいらしい舞、中学生の勇壮な舞に、観客はあたたかい拍手を送っていました。子ども神楽団・神楽同好会の団員たちはお互いに切磋琢磨しながら、これからも練習に励んでいきます。



王者の挑戦はここから始まる サンフレッチェ広島 必勝祈願

昨年のJ1リーグを年間優勝で飾ったサンフレッチェ広島。今シーズンを勝ち抜くための必勝祈願が、2月9日(火)に清神社で開催されました。

当初予定していた日が大雪のため延期となり、また都合のため当日訪れた選手は千葉選手と青山選手の2名のみでしたが、今シーズンの活躍を願い、監督・選手たちは神妙な面持ちで祈願していました。森保監督は挨拶で、「昨シーズンの応援に感謝しています。広島の皆さんに喜んでいただけるよう、ここ安芸高田市で練習を重ね、一つひとつの試合に最善の準備をして今シーズンも戦っていきたいと思います」と力強く語られました。



えほん、だーいすき！ おひざにだっこのおはなしかい

1月21日(木)、読み語りサークル「ゆかいななかまたち」の皆さんと図書館職員による、「おひざにだっこのおはなしかい」がクリスタルアージュ4階402会議室で開催され、会場には5組11名の親子が集まりました。保護者の方たちの膝に抱かれた子どもたちは、次々とめくられていく絵本の世界に引き込まれ、語りの方の呼びかけにも応えて立ち上がったりしていました。「おはなし会」は、毎月第3木曜日に0歳から4歳を対象に、第4土曜日には5歳から9歳を対象に行っています。詳しくは☎42-2421(中央図書館)にお問い合わせください。



お茶席でわび・さびを体験 第9回あきたかた市民文化祭「展示芸術の祭典」

1月24日(日)から1月30日(土)まで、クリスタルアージュにおいて、「展示芸術の祭典」が開催されました。

絵画・水墨画・絵手紙・デザイン・写真・書・パッチワーク・工芸・彫塑(ちょうそ)・トールペイント・いけ花・かご編み・パンフフラワー・短歌・俳句・ポーセラーツ・押し花絵・筆文字・布切り込み絵・切り絵・工作といった部門から、450点の展示作品が連なりました。また、お茶席やロビーコンサート、ぜんざい振舞いなどの催しも好評で、多くの人で賑わいました。出展作品は、第1回から倍近く増え、芸術愛好者の活動の成果を発表できる祭典となっています。